



●夢をみること

株式会社 佐藤機器

代表取締役 佐藤 誠一

東日本大震災により被害を受けられた皆様、企業様に心より御見舞い申し上げます。突然の衝撃から一年が過ぎ、翻弄された社会や経済もやっと秩序を取り戻し回復の方向へ動き始めてきたように感じます。しかし、この後数年以内に中部地方に大災害が発生するという予測に、子供ながらに憶えている当地名古屋の伊勢湾台風当時の光景が思い出され、不安を感じざるをえません。不測の事態にいかに備え、対応すべきでしょうか。会社を、何より大切な社員を守るために可能な限りの対策をと思いますが、想像もつかない事態を思うと何をすべきか分からず悩むばかりです。一般的な対策や考え付く限りの危機管理をしても、不安は取り除けません。

しかし世界は我々の状況に関らず、常に変動しています。自然災害や金融破綻等、様々な事象が起きる度に経済は我々にとって好い方向にも悪い方向にも急速に変化します。組織規模に係わらず、時に大きく時に予想もしない形で影響を被るのです。我社も例外ではありません。この数年間、経済環境の激動に直面する中、信じてきた道に対して心が揺らぐことが度々ありました。自社の技術と製品の精度を守り、挑戦の精神をもって最良の製品を造るよう努めてきましたが、未曾有の事態におかれ方針選択や経営への自信が揺らいだのです。まして小さな町工場では先様の動向次第で大きく左右されるので、先を見ては悩むばかりでした。

しかしこれ程想定外のことが起こると、逆手にとって気が楽にもなりました。悪状況の責任を環境に科し、共に頑張る仲間と励ましあうことで自分の正しさを信じることができたのです。環境を悲観しても自分を悲観視しないことで、どんなときでも進める道があると考えました。今までと違う環境だからこそ、何か新しいこともできると思います。思ってもみなかった分野か

らの仕事でも一か八かで挑戦してみたり、従来技術を複合したり、今は様々な可能性を試みています。悪状況でも好状況でも“今までと違う環境”には変わりはありません。世界は常に新しくなっているのです。不安を前に足踏みするのではなく、新しい世界で新しいことを、環境に応じて実行あるのみと信じています。

今の環境、そして日本だからこそのものづくりがあると思います。日本人の良さは何でしょうか。高度な技術、手先が器用…そんな枝葉のことではなく“日本人たること”なのです。日本の文化や習慣、国民性等を備えた“日本人”であること自体が良きなのです。ある国の国民の良さは、他国と優劣を付けられるものではなく、その国独自の文化や国民性全体であり、それを活かして生産されたものは、その国でしか作れない貴重な製品です。現地生産の時代だとか、海外流出や産業空洞化を心配する声もありますが、それらは求める製品によっては当り前の方法の結果として納得もできます。世界中に広く多量に販売するために、世界を現場にして作る。必要だからそうなるのです。日本でしか作れないものを作り、世界で販売する。“日本でしか作れない”これが一番の付加価値です。日本の産業を守るには、これだけは日本製でなければと言わせる物、類似品では決して敵わない、求められる逸品を作ることが重要です。日本だからできるものづくりとは、現代技術と日本独特の感覚、倫理感など目に見えない感性に裏打ちされた手法との融合であり、それがこの先より強く求められるものではないでしょうか。普遍的なものは無いけれど、受け継いできたものは変化しながらしっかりと身につけられています。世界が変動しても、柔軟に且つ信念を貫き日本人らしさと技術を誇りに、挑戦していくべきだと信じています。